

第2回

(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画

策定検討委員会

会議録

《要約版》

事務局 多可町生涯学習課

第2回(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画策定検討委員会 会議録

- 日時 令和3年7月1日(木) 午後7時～午後9時
- 場所 中コミュニティプラザ 2階 大会議室
- 出席者 20名/24名(敬称略)
- ・委員長 小嶋 明
 - ・副委員長 宮崎 和明 松本 壽朗
 - ・委員 熊田 正博 南畝 香野子 吉田 忠雄 門脇 昌弘 布一 和也
清水 賢彦 山口 達也 遠藤 ひとみ 殿井 瑞穂 植山 晶子
岡本 美紀 吉川 清 芦田 伸吾 杉本 真 山本 和樹
萬浪 佳隆 近藤 なぎさ
- ・事務局 地域共生担当理事兼ふくし相談支援課長 藤原 正和
生涯学習課 課長 檜本 一郎
生涯学習課 副課長 梅田 一志
教育担当理事兼教育総務課長 藤本 志織
教育総務課 図書館長 畑中 俊裕
教育総務課 図書館司書 依藤 啓子
- 議題 (1)次第3 委員によるプレゼンテーション
(2)次第4 レクチャー
(3)次第5 グループワーク
(4)次第6 議事(1) グループワーク内容の取りまとめ
(5)次第7 議事(2) 第3回検討委員会へ向けて
- 会議結果 (1)委員によるプレゼンテーションを行いました。
公募委員を中心に、一人あたり5分程度、応募の動機や生涯学習センターに期待することなどをプレゼンしていただきました。
- (2)第2次生涯学習推進基本計画の策定に至る経緯等を踏まえ、「8年間で何が変わったか?そして、これからの10年は?」をテーマにレクチャーしていただきました。
- (3)委員が4グループに分かれグループワークを行いました。
グループワークは(1)(2)の内容や各委員の考えに基づき、平成25年の提言書以降の時代変化や、それに伴いセンターに求められる機能をテーマに意見を出し合いました。また、それぞれのグループの意見を集約し、発表を行いました。
- (4)グループワークで出た意見をまとめるには至りませんでした。次回検討委員会にて資料提供することとしました。
- (5)次回検討委員会の議題について、事務局から提案しました。

■会議の経過

<p>次第 1 (事務局)</p>	<p>開会 (配付資料確認：省略) (委員アンケート結果を説明：省略) 本日は 20 名の委員が出席。検討委員会設置要綱第 6 条第 2 項に基づき、開催要件を満たしていることを報告。</p>
<p>次第 2 (B 副委員長)</p>	<p>副委員長あいさつ 夜分お疲れのところをご苦勞様です。 まだ新型コロナの終息が見えない中、予防措置をして進めていきます。ご協力をお願いいたします。 今日はワークショップが中心。改めて 8 年間で、変わってきたことをどんどん出していただいて、センターのあり方、作り方を考えていきたい。 その議論に先立って、3 つの数字を紹介します。 1) 令和 2 年国勢調査人口 (6 月 25 日総務省から発表) : 19, 284 名 この 5 年間で 1, 916 人減・9 %減。多可町人口ビジョン (令和元年度策定) 予測値 : 19, 402 人よりマイナス 118 (速度が上がっている) 2) 多可町の推計人口 (6 月 30 日の神戸新聞の記事、5 月 1 日時点) : 18, 973 人 推計ではあるが、19, 000 人を割っている。 3) 令和 2 年度の多可町の出生者数 : 66 人 6 月 1 日時点での 4 歳児の人口は 132 人。約半分ぐらい。 これらの数字は事実、冷たいように見えるが、これらの数字を踏まえてまちの活性化、それからまちの持続化も議論の中に入れていただきたい。</p>
<p>次第 3 (事務局) (委員)</p>	<p>委員によるプレゼンテーション 委員長・副委員長) 公募委員中心に思いを語っていただく時間を少しでも多く設けたい、との意向。今回は 3 名の委員がプレゼン (要約) 文科省の「これからの図書館」というホームページと、片山前鳥取県知事さんの本を参考に資料を作成しました。 北海道の北広島市図書館、鳥取の県庁内の図書館、あとは三重県の桑名市の図書館。この 3 つを参考に喋ります。 北海道北広島市は、人口 6 万人の町です。生涯学習の社会と言われる時代に、図書館が多く学ぶ人の側にあると認知されていることはとても重要なことですが、図書館が単に利用者に資料の仲介者にとどまっているうちは、相変わらず求める側と考える側の構図から抜けられない。地域の人や機関のエネルギーをもらい、立体的なネットワークを作り、その中で図書館の仕事を進めていく。そのようなことを既に 25 年前、そういうことを以て地域の問題を解決するための図書館を建てています。この町は、図書館の事業に 6 人に 1 人、人口 6 万人のうち約 1 万人が年間関わっています。もともと子どもへの読み聞かせのようなグループがいっぱいあって、そういう方が図書館を作りたい、と地域の人達の声でできた。しかもその人たちが、自分たちで運営する図書館です。約 200 名のボランティアが運営し、地域の問題を解決する図書館になっています。 2 つ目が鳥取県庁内図書館です。いわゆるリファレンスサービスを強化した図書館で、小さいけれど鳥取の一番強い図書館と連携を結びながら、情報を吸い上</p>

げた図書館です。リファレンスというのは、参考、参照ということですが、具体的には静岡市の図書館の事例では、地元のバス会社の利用者数を知りたい、県の中部の毎月の住宅の着工戸数を知りたい、そのような具体的なことを図書館に問い合わせると図書館の方が回答してくれる。実際、片山県知事さんも、災害対応にフィンランドの事例を参考にした事例もある。小さい図書館といえども、世界の情報と繋がっている、それがリファレンス図書館という姿です。

3つ目が、PFIを使って図書館を作る方法として桑名市が非常に有名だったみたいです。図書館を作る時にソフト面とハード面があると思うのですが、ハード面はPFI手法でやれば、良いものを提案してくると思うので、僕らがフォーカスしなきゃいけないのはソフト面。市民が作り上げる図書館、地方の問題を解決する図書館、リファレンス機能をフルに活用して地方に還元する、そういう図書館を目指すべきと思っています。

最終的には、3つの事例を通して、僕自身は図書館プラスという言葉を使っていますが、私たちの生涯学習センターだと言える、作る時から住民参加型の打ち合わせ等が必要だと思っています。2番目は地方創生的一端を担い、3番目は世界・全国と繋がって情報を吸い取ることができるような生涯学習センター、そのようなものが作れば面白い。

その当時HPに21例あり、それぞれの図書館がやっている地域に密着したやり方が非常に勉強になりました。そういうことを、今回この生涯学習センターに応用できれば、と思っているところです。

(要約)

(委員)

いま私は、県の2050年のビジョン策定に関わっています。2050年の男性の平均寿命は84歳、女性は90歳になると統計されています。今の寿命よりも約5歳ほど長くなる。高齢化が問題という言葉は聞くが、一個人として長生きすることが不幸とは思いません。私のおばあちゃんは今年104歳、母親も83歳。ともに元気で、1年でも長生きして欲しいと思っています。そして、元気で、幸せで、そのうえで共に家族で暮らしていければ最高だと考えています。

さて、図書館を含めた生涯学習センター、以前検討された中でも、中央公民館とか、子育て世代、男女共同参画、音楽活動や、多目的フロアなどの複合施設という文言もありました。現在の多可町図書館は限界、アスパルも改修が必要、子育てセンターがある旧中町保育園も作り直す必要があるでしょう。であれば、すべてを含んだ空間として建築を考えるべき。アスパルやグラウンドを中心とした、健康年齢を高めるエリア。子供たちの笑い声・親のしかる声・学生の騒ぐ声も聞こえる。その中に、生涯学習や子育てセンター、子ども食堂、共生社会、男女共同参画、外国人との多文化共生、もちろん図書館や歴史・文化の展示やホールも含んだ、どの年代もが幸福を感じ、学ぶことのできるエリア。そして、道の駅や観光センター、レストランなど。また、移住定住の相談センター、たかTVの収録ブースがあっても面白い。さらに、町のFM放送があれば、遠くまで情報をオンタイムで共有でき、高校生のDJ放送などワクワクします。そんな町をPRし、観光で来られた方や、都市部との繋がりを持つことのできるエリア、アスパルや北アリーナなどの一帯を、そんなフィールドにしたいと思います。健康年齢を高めるエリア、幸福年齢を高めるエリア、まちをPRするエリア、その全てのエリアが近隣に存在しフィールドとなる。そのフィールド全体がまちづくりの

	<p>拠点であり、おもちゃ箱のような存在であって欲しい。何年たってもワクワクする正の遺産として、住民に愛情の灯火を照らすフィールドとなっている。なぜなら、そのフィールドには偶然な出会いがあるからです。おもちゃ箱がバラバラでは駄目です。お互いに近くにあるから、偶然の繋がりが生まれ、その偶然な出会いが仲間・チームとなる。同じ方向性を向いたチームだからこそ、実りのある活動ができ、持続可能な組織になる。そんな偶然なる出会いが2乗3乗の活動力となり、住民の住民による住民のための拠点になる。もちろん、建物を作るのが最終目的ではなく、どう活用するか。そのための仕組みづくりや人材は、それは官ではなく、幅広い偶然なる出会いを中心とした民でなければならぬと考えます。</p> <p>(要約)</p> <p>(委員) 今回私も他の施設を簡単に調べたところ、やはり子育てのセンターから一括で考えている施設が結構多いです。実際使う側として、図書館とか、全部場所がバラバラってところが不便です。行く側としては1つだったら便利です。近場で言うと、西脇市)ミライエのように、1つのところに集中しているところがあって。利用者数が少ないところも、子育て・子供の時から行く・行っていた、という経験があれば、大きくなって小学校・中学校・高校生になっても、「あそこに行けばこういうことができる」ということがもう頭の中に入っている。慣れと言うか、行きやすい場所になると思います。私も他の方と同様に、一括・統括したような施設になればいいな、というところを考えています。そういった子育ての目線からの意見となります。</p> <p>(事務局) 次回以降も、委員方のプレゼンの時間を設けたい。 公募委員に限らず、団体選出の委員もお願いします。</p>
<p>次第4 (事務局)</p> <p>(委員)</p>	<p>レクチャー</p> <p>「第2次生涯学習推進基本計画」を通して、平成25年時点の検討内容以降の時代変化、それに伴う生涯学習の取り組みを再認識することを目的に、レクチャーを企画。講師は生涯学習アドバイザー(委員)。</p> <p>(要旨・キーワードのみ要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習社会とは何か?→法律では「国民一人一人が…」 キーワード:自立・協働・創造 あらゆるものを含んで、学校も家庭も企業も全部ひっくるめて、生涯学習社会 ・第2次生涯学習推進基本計画の改定のキーワード:「人生100年時代」 計画は10年間だが、50年先100年先を見据えている。 →SDGs、11:持続可能な都市(包摂的で安全かつ強靱で、持続可能な都市及び人間居住を実現する) ・まちが残っていくとは?→多可町も将来合併してなくなる可能性もある。 ・グローバル化の進展→多可町でも海外の方が居住もされている。 日本の英語教育は?生きた英語だったか? →生涯学習センターで補うことはできないか? ・人工知能:AIの急進

- 20～30年後、今の職業の半分がなくなると言われている。
- 何が残るか？
- （私見）「し」「か」：操縦士・医師・教師などの「士」「師」
漫画家・演劇家などの「家」（専門家）
- ・ Society 5（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題解決の両立した社会）
 - 電子決済などの仮想空間：避けて通れない。
 - ・ 若い人たちの価値が全然違ってきている。
 - ・ 起業家の育成をしていかなければならない。
 - 多可町は狭い、大きな企業誘致が必要か、近隣市に対抗できない。
 - 起業家を誘致したらいい、今までなかった仕事
 - 例) e-スポーツ、YouTuber、ブロガー、VRのデザイナー、仮想通貨のトレーダー、民泊のオーナー、ドローンの操縦士
 - ・ 人口減少社会、少子高齢化、何が問題か？
 - 生産世代だけなら問題ない。若い人だけだったら、持続可能である。
 - ただし、若い人たちもいずれは高齢化していく。
 - ・ 高齢化すると社会的孤立になりやすい。特に都市部に多い。
 - ・ 子育てするなら多可町。ではその先は？
 - 子供は育ち、教育を受けて仕事をして、結婚して子育てして、老後。
 - これまでの考え方：単線型人生
 - これからは多段式(マルチステージ型)人生
 - ・ 未婚やジェンダーの問題
 - 結婚しない、子育てしない→いきなり老後
 - 仕事もフリーターでよい（今までの概念と違う）。
 - ライフステージに応じた学びの支援が必要。
 - それらを念頭に置いた生涯学習センターが必要ではないか。
 - ・ 学校教育は？→開かれた教育課程（学校だけはもう対応できない時代）
 - 地域学校協働本部事業
 - =地域支援から地域と学校双方向の連携や協働を目指す。
 - 地域学校協働活動
 - =コミュニティスクール(学校を核とした地域づくり)
 - ・ 自分が住みたいまちを作っていくためにどうするのか？
 - 今までは出て行く教育（立身出世）、これからは支える教育（ふるさとを作る教育）
 - 高学歴の人間を育てれば育てるほど、多可町から人材は出ていく
 - それをどうして留めておいておくかが課題→いずれ消滅可能性自治体となり得る。
 - ・ 人間関係の希薄化：3だけ主義「今だけ」「金だけ」「自分だけ」（東京大学・鈴木宣弘教授）
 - ・ Uターン者・Iターン者・Jターン者→地元住民との交流
 - ・ 「人づくり、繋がりづくり、地域づくり」（中教審生涯学習分科会答申 2018. 12. 21）
 - ・ コミュニティデザイン=人と人との関係性をどう作り出すか。
 - ・ 富の分配に限界：行政には金も人も無い

	<p>→「おんぶに抱っこ」ではいなくなった。</p> <p>→自立した自治を、自らで考え行動しないといけない。</p> <p>→中村町の「じーば」のように、自立した自治を自ら考えて行動する時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すところは「社会的包摂」 <p>→社会的に弱い立場にある人々も含め、一人一人が排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り組み支え合うという考え方。</p> <p>→一人一人が主体的に参画できる社会の実現と、人権・男女共同参画なども含めた、生涯学習の中心基地ができれば望ましい。</p>
次第5 (事務局)	<p>グループワーク</p> <p>委員のプレゼンやレクチャーの内容を踏まえて、グループワーク。</p>
次第5-1, 2	<p>アイスブレイク ワーキング</p>
次第5-3	<p>各グループの意見発表 (要旨・キーワードのみ要約)</p>
(A班)	<p>生涯学習センターにどういうものが必要とされているのか、というものを中心に議論した。必要/不要、変わらない/変わった、4つの指標がある中で、やっぱりどうしても何が必要か、というのに集中してくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人：学習アドバイザーとか生涯学習コーディネーターとか、そういう人。 ・機能：機能というか、空間。例えば、ピアノを置いて、誰でも引けるような仕組みを作る「誰でもピアノ」。あるいはコンサートホールとしても使える機能を持ったところが欲しい。それが発表の場である。それからスポーツ、今のアスパルにあるような機能が、もっと積極的に取り入れられるべきだということ。 <p>人口減少・少子高齢→1ヶ所には本当は集めない方がいいのけども、集めざるを得ない。→交通手段：山間部、周辺部・辺境部の高齢者の方の交通手段が、絶対必要になる。(周辺環境整備)</p> <p>今の子育てふれあいセンター：広さ・機能十分でない。→繋ぎの場としての子育てセンター、学習スペース、子供たちの居場所、そういう機能もやっぱり欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT・PFI：公共と民間のうまく補強し合うやり方。
(B班)	<p>平成25年の提言書の必要性、よくあれだけまとめられたと感心する。必要性と位置付けを、時間もない中でよく意見を出してまとめられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例：八千代のスーパー（農協）がなくなった＝人の集まりがなくなってしまった、集まる場所が減ってしまった。 <p>中央公民館も目的の違うものになっている（なくなってしまった）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て：環境整備は本当に大事。子育て学習センターが幼稚園の後にできた→これは大きなプラス、これを生かさないといけないのでは →ゾーンとかエリアを絶対大事にしないといけない ・新しい地域課題：新しい方が入ってくる→コミュニティの中の小さな問題？地域間での交流の問題も出てきている→新しく学べる、皆で作る取り組みが必要。

<p>(C班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんが集まれるところを確保する→そのためのセンターの構造を考える必要：単純にこの部屋があったら良いではなく、使いやすい形の部屋とか ・図書館は絶対必要、ただし箱物図書館（高額な図書館）はいらない。→視点として子どもたちのためのものが必要 ・多可町文化を残す ・今の図書館は非常にスタッフが良い→やっぱり大事な人は人である。 ・図書館）高齢者から子どもたちへ、というベクトル→多世代に渡って触れ合いができる場所、お年寄りがいて子どももいる。そのバランスが非常に大事 ・図書館の規模は→決して大きなものは必要ない。小さい／何かに特化した図書館→ただし、現時点で機能を絞りきることもできない→例）森の中の図書館、カーボンニュートラルとか省エネの視点も必要 ・外国人の増加：グローバル化の中で、図書館をどう位置付けるか ・エリア：北播磨全体で考える。多可町で考える。 <p>色んな制約は抜きにして、こんな図書館／生涯学習センターがあったらいいな、という中で、皆が集まれる、触れ合えるために、こんな場所があったらいいな、こんな欲しいな、というアイデアをまずは出してみる、ということが大切じゃないかという話になりました。</p>
<p>(D班)</p>	<p>うちのチームは、多可町でこの8年間変わったもの、という問いかけをしました。そういう答えで見て欲しいのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わらない、必要なもの：源流の町→杉原川、野間川、大和川、この三つの源流の町は変わらないし、これは大切に必要なもの。 ・8年間経っても不便なもの：車社会・車の運転。公共交通が不便なところは変わらない。 ・必要なもの：子どもの遊び場、子どもと自然の触れ合い、学校行事が減った、人情、地域の集まり、子どもの数→変わってしまったけど、必要なもの ・不要で、変わった：今の時代マスクは仕方ないが、不要。 ・悪い方）野鳥の姿：見られなくなった ・良い方）川が綺麗になって、川の色が変わった。 <p>今年ほどこの川でも蛍が多かった。</p> <p>色々書いたけど、一番言いたいこと。「変わらない／不要」の欄に意見がないことが、この会の問題じゃないか。何でここは出ないのか。このグループワーキングの中に、高校生・中学生、実際に図書館／学習センターをこれから使う世代のメンバーがいない。だから、この欄が出てこないのではないか、という結論になりました。</p>
<p>次第6 (委員長)</p>	<p>グループワーク内容の取りまとめ</p> <p>皆さんグループワークお疲れ様でした。</p> <p>それぞれに4人から発表いただきました。センター／図書館にこだわらず、町で変わったこと変わらなかったこと、という広い話をしていただきました。あとの三つは、それぞれの施設等についての思いを聞かせていただきました。</p> <p>今日の内容を整理、資料化をして、次回に繋げます。</p> <p>私はBに参加し、「この8年間に何が変わったか」という中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館→公民館機能が変わっていった

	<p>・子育てふれあいセンター→できた：独立したものができている。</p> <p>そして、冒頭の委員プレゼンで、1つの施設だけを見るだけでなく、ゾーン形成として子育てふれあいセンター、道の駅、アスパル、アリーナがあり、そして健康とか幸福度とか、広いゾーン形成をしていくということが語られましたが、そういう広い中で、このセンター構想についてまた深めていただきたい。</p> <p>これは当然場所等の話にも関連してくるのですが、特にこれからの世代の思いを聞きながら、進めていきたい、と思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>次第7 (事務局)</p>	<p>第3回検討委員会へ向けて</p> <p>全体スケジュール案では、第3回は候補地についての検討。</p> <p>先ほどゾーン形成の話も出ました。平成25年の時点でも候補地を選定していますが、その後の状況変化も踏まえて、素案をお示ししたいと思います。</p> <p>場所、それに伴う機能の予備知識として、都市計画や防災の考え方も密接に関係するので、その辺りのお話もさせていただきたいと考えています。</p> <p>さらには、前回委員長から、財政状況はちゃんと知っておかなければならない、という話がありましたが、財政状況、先程の候補地の件について検討いただきたいと考えています。</p> <p>予定どおり、8月6日でよろしいですか。</p> <p>(了承)</p> <p>それでは、第3回は令和3年8月6日(金)、午後7時、加美コミュニティプラザでお願いいたします。</p>
<p>次第8 (委員長) (C副委員長)</p>	<p>閉会 (事務連絡：省略)</p> <p>追加させていただきます。</p> <p>この委員会の運営ですが、委員会と委員会の間をどう繋ぐかについて、前回から委員長と副委員長と事務局とで、1回目の委員会の内容を踏まえて、次の運営やその資料の整理・確認をさせてもらっています。過去には作業部会をしていたのですが、そこまですると過密スケジュールになりますから、委員長と副委員長と事務局とでそういう作業に当たる、ということにご了承賜りたいと思います。</p> <p>皆さん、昼間はそれぞれの仕事で大変忙しい中、大変寄りにくい時間帯に集まっていたかまして、ありがとうございました。</p> <p>こういうコロナ禍の時代にあって、健康づくりがまず一番大事な、我々の生涯学習の一番の基本です。そしてまた今日のこういう活動そのものが、生涯学習の実践活動になっているということを改めて意識したいと思います。</p> <p>今日は盛りだくさんな行事で、委員によるプレゼンテーション、本当にお世話様でした。それぞれ、本当はもっと時間を取るべき内容でしたが、我々自身がそのために消化不良を起こしてしまったこと、両方の面でご迷惑をおかけしました。また、レクチャーについても同様です。皆さん方の今までのご尽力によって、ある程度の生涯学習についての基礎知識をお持ちだという前提のもとで、かなり詰まった中で進めさせていただきました。次回は、我々3人でまとめながら、できるだけ上手く前に進めるようにしたいと思います。</p>

7月21日は視察研修、そして8月6日の第3回の加美プラザにおける検討委員会、それぞれ行事が詰まって参ります。またその間には図書館協議会の検討委員会が入っております。それぞれの情報をうまく取り入れながら進めていきたいと思えます。

引き続き、暑い夏がやってきまして、頭の働きもなかなか大変ですが、健康に留意されまして、次回の視察研修、あるいは検討委員会にこぞってまたご参加いただきますようによろしく願いしまして、閉会にあたっての言葉といたします。どうもありがとうございました。
